

名誉教授に落合氏ら5人

学園が称号授与式 累計 64人



愛知工業大学
愛知工業大学情報電子専門学校
愛知工業大学名電高校
愛知工業大学附属中学校

目次:

思い出と感謝と	2
化粧まわし寄贈	4
就職率私大4位	6
ものづくり体験	6
防災マイスター	7
専門学校同窓会	7
友好願い記念碑	8
高校野球部特集	8

発行所

名古屋電気学園

〒470-0392

豊田市八草町八千草1247

TEL (0565) 48-8177

名古屋電気学園は七月八日、愛知工業大学名誉教授の称号授与式を八草キャンパス本部棟で行い、落合鎮康氏、酒井忠雄氏、中島剛氏、池田良夫氏、寺本和幸氏の元教授五人に後藤淳理事長から称号を贈り、本学に対する顕著な功績を称えました。寺本氏は直前の六日に死去され、式の後称号記が遺族に届けられました。本学の名誉教授は累計で六十四人となりました。



名誉教授の称号を贈られた皆さん。後藤淳理事長（前列左から3人目）、後藤泰之学長（その右）を囲み、前列左から中島剛氏、落合鎮康氏、酒井忠雄氏、池田良夫氏



名誉教授をねぎらう
後藤淳理事長

後藤淳理事長が ねぎらいの言葉

式には四氏のほか学園、大学の幹部が出席、後藤理事長が一人ひとりに称号記を手渡しました。後藤理事長はまず「寺本先生はこの日を楽しみに待っていました。残念なことでした」と哀悼の意を表しました。

この後四氏それぞれに声をかけ「この年代の方々はおうちへお見えになったところから覚えがあります。落合先生は本当に努力され学会



お礼の言葉を述べる後藤泰之学長

等で活躍されました。酒井先生も隣の岐阜県からお見えになつていらっしゃる研究分野で後輩の指導にあたられたと伺っております。中島先生も京都大学からお見えになつて、諸外国で多方面にわたつて研究、活躍されたと承っております。池田先生は面接の時にいろいろ聞いた覚えがあるが、親指を突き出して研究内容を説明されていたことが鮮明に記憶に残っています。いろいろ思い出は尽きませんが、この愛知工業大学で学生の指導、若い人へ研究指導をいただきありがとうございます。多くの先輩に指導いただき、大学もここまで頑張っています。いつまでもお元気で、寺本先生の分までしっかり頑張ってください。今日はおめでとございます」と名誉教授になられた方々の労をねぎらいました。

また後藤泰之学長も挨拶し「名誉教授おめでとうござ

ざいます。本学に対し教育、研究や、大学の運営にも永年お力添えいただき感謝申し上げます。愛知工業大学の名誉教授の肩書ですます活躍していただいで、後輩にそういう姿を見せて頂ければと思います」と祝福していました。

これに対し、一人ずつお礼の言葉を述べました。

＝ 関連2面

学園卓球勢が活躍 附属中は全国4連勝 = 3面

相撲部中嶋君 世界ジュニア選手権優勝 = 4面

ロボカップ世界大会 高校チームが優勝 = 4面

名誉教授 思い出と感謝と



落合 鎮康氏

「48年間お世話になりました。そのうえ名誉教授の称号を頂き心から感謝しています。私自身、本学でどれだけ貢献できたか顧みるところ、うちの研究室から出た博士が電気学関係の教員として2人残っており、少しは寄与できたかなと思っています」
平成4年、工学部電気工学科教授 平成16年、総合技術研究所教授兼務



酒井 忠雄氏

「ありがとうございます。1993年に大学に来てちょうど20年になります。一番よかったのは研究の条件が非常に良かったこと。特に学術フロンティアでは8年間籍を置かせてもらい外国との交流や研究を楽しませていただいて感謝しています。大学で培った知識を少しでも社会に還元できればと思っています」
平成5年、工学部応用化学科教授 学長補佐、大学院工学研究科長、研究支援本部長



中島 剛氏

「本学に14年間勤めましたが、こちらへ来て最初の印象は大学の自由な雰囲気でした。人を育てる意味でも重要なことで、いいところでお世話になりました。若い人たちが頑張ってくれると期待しております」
仏ピエール・マリークュリー大学招聘教授などを経て平成12年、工学部応用化学科教授



池田 良夫氏

「元気なうちは社会貢献をしたいと申込書を書こうとしたとき、もう所属、肩書がないことに気が付きました。11月に名古屋で開かれるユネスコ世界会議でボランティアを務めますが、所属、肩書ができて大変ありがたいことです」
平成4年、工学部経営工学科教授（現経営学部経営学科）



葬儀会場に飾られた名誉教授称号記

葬儀会場に名誉教授称号記

寺本和幸氏に贈られた称号記は千種区の葬儀会場で、祭壇わきに、遺影、著書とともに飾られ参列者の目を引いていました。

寺本氏は平成16年、経営情報学部マーケティング情報学科教授。

昨年11月12日、学園の創立101周年記念式典において永年勤続者表彰で勤続45年の表彰を受けました。



在りし日の寺本和幸氏

本部棟で行われ、後藤淳理理事長が、すゞ子先生が奨学金を設けた思いを説明し、母親に「頑張ってください」と奨学金を手渡ししました。後藤理事長は学生にも「まだ若いんだからへこたれてはいかんよ。お母さんを大事にして頑張ってください」と励ましの言葉をかけていました。

後藤泰之学長ら大学、学園幹部も同席しました。



奨学金を手渡す後藤淳理理事長

後藤すゞ子先生奨学金交付学園は七月二十二日、「後藤すゞ子先生奨学金」を大学一年生の母親に交付しました。元学園長の後藤すゞ子先生の遺志に基づき設けられている奨学金は、父親の死去など思いがけない理由で学資の負担が難しくなった設置校の学生、生徒が学業を継続できるように支援するものです。

交付式は八草キャンパス

中学、高校、大学 卓球勢が大活躍

学園の卓球勢は今夏、大学、高校、中学ともに好成績を残しました。附属中卓球部は徳島県で開かれた第45回全国中学校卓球大会で優勝、大学男子卓球部はインカレで、高校卓球部はインターハイで、ともに準優勝しました。



閉会式で準優勝のメダルをかけてもらう大学男子卓球部の選手たち

大学はインカレ連覇ならず
六月、東京都・墨田区総合体育館で開かれた第八十四回全日本大学総合卓球選手権大会（団体の部）



全中で優勝した附属中卓球部員ら。左は応援の後藤淳理事長。写真は Nittaku(ニッタク) 提供

附属中が4連続全国制覇

附属中卓球部は八月二十四日、徳島県で開かれた第四十五回全国中学校卓球大会（全中）決勝で、青森山田（青森県）を下した城南（石川県）と対戦、田中佑汰選手（2年）、木造勇人選手（3年）が勝って先制し、複も太田輝・橋本一輝組の活躍で3対0のストレート勝ちし圧倒的な強さを見せました。
全中は昨年に続き2年連続8度目の優勝。また春に

開かれる全国中学選抜卓球大会でも昨年、今年と連覇しており、これで4連続全国制覇となりました。
真田浩二監督は「準決勝の野田学園（山口県）戦はラストまで回る接戦でしたが最後に田中が素晴らしい精神力で締めくくり決勝へ進出できました。決勝もオーダーがよくストレート勝ちできました。5連勝へ向けてさらに頑張りたい」と話していました。
後藤淳理事長も鳴門市の会場へ応援に駆け付け、選



決勝で3位の近藤選手

手たちを祝福していました。
短距離近藤君今季の最高

高校陸上競技部（短距離）の近藤晃（ひかる）選手（3年）は七月三十一日、山梨県甲府市で開かれたインターハイ陸上競技の男子100メートル決勝で10秒71をマーク、三位に入りました。
今大会の目標は決勝進出だったので三位は「予想以上の成績だった」といいます。
特に準決勝では今季高校最高の10秒36でトップ。これは高校歴代17位の記録で、自己ベストも0秒22更新しました。準決勝では集中力を高めてスタートダッシュに成功、ぐんぐん加速できたといいます。決勝も気負わずにレースを楽しもうと臨みました。



インターハイであと一歩及ばず準優勝となった高校卓球部。写真は月刊「卓球王国」提供

勝しました。大会に入ってから好調に勝ちを収め、八月八日に迎えた決勝は宿敵の青森山田（青森県）との対戦。「十九年ぶりの優勝をつかみたい」と強い気持ちで臨んだという一番手の水谷良紀主将（3年）が積極的な攻めでまず一勝、好スタートを切りました。しかし、粘り強く戦ったものの後続を断たれ1対3と及びませんでした。今枝一郎監督は「準決勝まではパーフェクトだった。いい試合を見せてくれ、感謝している」と、選手たちの活躍をねぎらっていました。

中学時代は野球部で、本格的に陸上を始めたのは高校入学後。大学でも陸上を続けたいとのこと。

の決勝に進出、強豪の明治大学（東京）と対戦しましたが1対3で敗れ、残念ながら準優勝に終わりました。昨年の優勝に続く連覇はなりませんでした。
決勝では一番手の吉田雅己選手（経営学部2年）が3対0で快勝、先制しましたが、選手層の厚みを増した明治に阻まれ、後続を断たれました。鬼頭明監督は「今大会は明治に勝って連覇するために、十分な準備と対策をしてきましたが、力が及びませんでした。来年また頑張ります」と話していました。

高校相撲部中嶋君、世界ジュニア制す

高校相撲部の中嶋亮介主将(三年)は相撲の世界ジュニア選手権(八月三十日・台湾)に出場し、団体、個人戦ともに優勝しました。団体戦は日本代表チームの一員に選ばれ大将として臨みまし



十和田大会、世界ジュニア選手権と続けて制覇した中嶋亮介君

た。個人戦は重量級に出場、決勝ではグルジアの選手を押し出しで破りました。監督の澤田勉教諭は「とにかく前に出る攻めの相撲で、安定感がありました」と振り返っていました。

中嶋君は世界大会に先立って開かれた第六十三回

選抜高校相撲十和田大会(八月十五日・青森県十和田市相撲場)でも、個人戦決勝に進出、金沢市立工業高校の「高校横綱」城山聖羅選手を寄り切りで破り優勝しました。同大会個人戦では過去に二、三位はありますが優勝は初めてです。中嶋君は愛工大附属中学から相撲部に在籍、毎日豊

橋市の自宅から二時間以上かけて通学する頑張り屋。

来春は大学に進学して相撲を続けます。

ロボカップ世界大会

ブラジルで七月に開かれたロボカップ世界大会ジュニア部門に高校の「TEAM ADVANCE」が出場、「スーパーチーム」という競技でイランと合同チームを組み見事優勝しました。組む相手や課題は前日に発表されるという難競技ですが、言葉の壁を乗り越えた協力、臨機応変の対応が光りました。単独で挑んだレスキューB競技では五位でした

出場したのは中高一貫の

名電高チーム優勝

高校一年生、メカニカルアーツ部の三村柚貴君、塚本紳二君、宮地玲央君の三人です。スーパーチームはレスキューB競技に出場し



「スーパーチーム」で、イランと合同チームを組み優勝した名電高生チーム

を改良しプログラムも組み直しました。イランチームとはもちろん初対面ですが、イラン側が球を集め、日本側が運ぶという役割分担が功を奏したようです。トロフィーを手にした三村君たちは大喜びで「次もレスキューBでリベンジする」と話していました。

レスキューB競技は自律走行ロボットが迷路を進み、壁に隠された被害者を熱感知で探し出し、時間内に帰還(脱出)するルールです。十五、十九歳が対象で日本の二チームを含め世界から二十チームが出場しました。高校一年の三村君たちはほとんど最年少と言え、年上のチームに伍してよく健闘しました。

三人は大学エクステンションセンターが運営する

本山ロボット講座でも学び、附属中、高校を通じてロボットに取り組む仲間。今年三月の日本大会レスキューB競技で準優勝、世界大会出場権を得ました。八月二十八日に大村秀章愛知県知事、川村たかし名古屋市長を訪れ優勝報告し、お祝いの言葉を贈られました。

学園へ贈られた若松、山分両親方の化粧まわし



若松、山分両親方の化粧まわし学園へ

大相撲の若松(元朝乃若)、山分(元武雄山)両親方が母校・愛工大名電高校の校章入り化粧まわしを学園へ寄贈、若水キャンパスに展示されています。両

親方はともに名電高校相撲部出身。それぞれ十両昇進時に相撲部OB、教職員、保護者らの協力で贈られたもので、一昨年、学園が創立百周年を迎えた記念に寄

贈の話が持ち上がり、「里帰り」した格好です。名電高校のスクールカラー紫の地に金色の刺繍で校章と四股名が施されています。

場所中の七月十八日、名電高校を訪れた山分親方は久保芳孝校長や相撲部の澤田勉監督と懇談。ご当地名古屋場所で締めたといい、「母校に飾ってもらえ光栄です」と話していました。

た二十チームを主催者側がランダムに二チームずつ組みあわせ、計十チームで競いました。前日に示された課題はレスキューB競技とは全く異なり、原発事故で拡散した放射性物質に見立てた直径五センチ程度の発泡スチロールの三個の玉を所定の場所まで運ぶという内容です。

このため徹夜でロボット

交響曲第7番など熱演 愛工大管弦楽団が定期演奏会



ベートーヴェンの交響曲第7番などを熱演した
愛知工業大学管弦楽団の第17回定期演奏会

愛知工業大学管弦楽団は九月七日、名古屋市の三井住友海上しらかわホールで第十七回定期演奏会を開き、ベートーヴェンの交響曲第7番などを熱演、満席の聴衆から大きな拍手が送られました。

この日は、プロのピオラ奏者として知られ、椋山女学園高校教員の中村暢宏氏を客演指揮者に迎え、ベートーヴェンの中でも大編成の難曲として知られる第7番のほかチエコ民謡をテーマにしたスメタナの「わが祖国より」「フランドール」、エロール（フランス）のワルツ「ザンパ舞曲」の三曲を披露しました。

三曲とも初めて取り上げ

たもので、団員たちは意欲的に練習に取り組んできました。

管弦楽団は昭和五十八年に同好会としてスタート、その後、大学のクラブとして活動しています。メンバーは機械学科三年の野坂弥部長はじめ二十五人と小

のよう大曲に取り組む演奏会は東海学生オーケストラ連盟に所属する他大学の学生の協力を得て編成します。普段の活動は大学の卒業式や入学式で国歌や祝典行進曲を演奏するほか施設や老人ホームも慰問しています。

顧問の隅山孝夫基礎教育

センター教授は「学生たちは日頃から意欲的にやっています」と話し、愛工大名電高校吹奏楽部出身で監督として指導にあたる水野一平・教学センター主幹も「練習の成果で、胸を張って素晴らしい演奏を披露できました」と話していました。

来月26日全国大会

名電高校吹奏楽部

名電高校の吹奏楽部は八月二十四日、浜松市で開かれた第六十九回東海吹奏楽コンクールの高校A編成の部（五十五人以下）で他の二校とともに金賞を受賞しました。十月二十六日に名古屋国際会議場で開かれる全日本吹奏楽コンクール全国大会に出場します。今回は最多三十七回の出場となります。

学園が事務職員研修

学園は職員研修を九月三〜五日、八草キャンパスで行いました。「ライフスタイルウーマン」（名古屋市の吉居理奈子代表が講師を務め、コミュニケーション



コミュニケーション術について研修を受ける学園の職員たち

術を中心に学びました。

三日は管理職三十三人が対象。後藤淳理事長が「教育の場を支えているのが皆さんです。部下を束ね仕事を進めるためにこの研修を活かしてください」と挨拶しました。その後「モチベーション・コントロール研修」と題して行われました。簡単な自己分析テストで人間を四つのタイプに分け、それぞれの特徴を説明、吉居代表は「部下のモチベーションを高めるには自分と相手のタイプの違いをよく理解してコミュニケーションを取る事が大切」と話していました。

四、五日は一般の職員ら百八人が対象。「好影響を及ぼすコミュニケーション術」をテーマに研修を受けました。

愛工大テクノフエアが

十一月二十一日午前十時から、八草キャンパス1号館で開かれます。本学総合技術研究所はじめ各研究センター、大学院、学部の産業技術に関する研究ポテンシャルを企業や地域社会の方々に公開し、産学連携や共同研究に活かすもので二

回目の開催です。

研究展示ブースで本学教員が直接説明して対応するほか、午前は正木和明地域

研究成果一堂に 11月21日愛工大テクノフエア

防災研究センター長（都市環境学科教授）が「南海トラフ地震に備えた地域防災力の向上技術」と題して特

別講演。午後は教員五人による講演会があります。またグリーンエネルギー研究拠点の国際シンポジウムも

併催されます。

講演会のテーマ ▼青木道宏電気学科教授「やわらかい通信ネットワーク」▼

森田靖応用化学科教授「ポストリチウムイオン二次電池への挑戦」▼今野彰機械学科教授「宇宙開発分野に求められる技術シーズ」▼

河路友也建築学科教授「空気調和システムの省エネルギー」▼中條直也情報科学科教授「ITが支える自動車と今後の課題」

大学就職率 97・1%

大学の今年三月の卒業生の就職率はキャリアセンターのまとめによると、工学部九八・四％、経営学部九三・七％、情報科学部九五・七％、大学全体では九七・一％でした。

一方、全国二百四十六大学のランキングはサンデー毎日(七月二十七日付)が「実就職率」として集計

者数：就職希望者数(卒業生—進学者—自営業—家事手伝い—留年—資格取得)となりました。「実就職率」は文科省の「就職率」と区別するため今年度から表記されるようになり、就職者数÷(卒業者数—大学院進学者数)として計算するた

した本学全体の就職率は九三・〇％となり、卒業者数一〇〇〇人以上の分類では全国九位(私立大学では四位)、愛知県内の私立大学では一位でした。就職率の定義は昨年十二月十六日付文科省通知で変更され、就職率Ⅱ就職決定

ランキング 全国私大で4位

め、就職率より分母が大きくなり数値が低くなる傾向にあります。

人力飛行機の講義も 高大連携プログラム

進学意欲の向上や大学選択の一助にと「愛知工業大学 高大連携プログラム」が八月二、三両日、大学八草キャンパスで開かれました。連携協定を結ぶ岡崎東、津島高校など十四校と名電高校から両日合わせ



共通講座で機械学科の水谷充准教授が行った飛行機の講義

約三百四十人の高校生が高大連携特別講義を受けました。この特別講義は愛工大に入学した場合に一定の条件をクリアすれば単位として認定されるものです。

両日とも午前十一時から、は全学年共通講座があり、二日は工学部機械学科の水谷充准教授が「飛行機の始まりは、人力飛行機であった」と題して飛行機の仕組みや本学の人力飛行機作りの取り組みを紹介しました。三日は情報科学部情報科学科の水野慎士教授が「エンターテインメントを支える様々なCG・デジタ

ル技術」と題し、昨日本学が制作した映画「A・F・O」で使われたCGやデジタル小道具を紹介しました。会場ではメモを取りながら熱心に講義を聴く高校生の姿が見られました。

午後は各学年に別れての選択講座がありました。

ものづくり

楽しく体験

子どもたちにもものづくりを楽しく体験してもらう「まるごと体験ワールド」が八月二日、大学八草キャンパスで開かれ、小中学生二百四十八人、保護者三百十六人が参加しまし



パソコンで「いなむらの火」と題した物語の塗り絵をする子供たち

体験」、高学年や中学生では「ロボットカーづくり」など子どもたちは保護者と一緒に真剣に取り組んでいました。

ジュニアマイスター 野下君がゴールドに

全国工業高等学校長協会のジュニアマイスター顕彰制度で、名電高校科学技術科電気分野三年の野下聖仁君がジュニアマイスター・ゴールドに認定され、九月一日の始業式で認定証が伝



達されましたⅡ写真。工業系高校に在籍する生徒の意欲を高め、自信と誇りを持つて産業界で活躍できるように励ますことが目的。各種資格や検定試験を点数化し合計が四十五点以上でゴールド、三十点以上四十五点未満はシルバーとして認定します。野下君は危険物取扱者試験乙種1〜6類のすべて、第二種電気工事士など計十四種に合格しました。同校では毎年一、二人がゴールドに認定されています。

た。豊田、瀬戸、長久手、みよしの各市で参加者を募集する地域貢献事業で今年で十三回目。人気が高く、今年も約二倍の応募者の中から抽選で参加者が選ばれました。工学部、経営学部、情報科学部、エクステンションセンター、地域防災研究センターの教員が多彩な十二の講座を開き、小学校低学年では「雨が降り出すと電子オルゴールが鳴る雨降り警報器」、高学年では「とよたのヒノキを使った木工

社会人防災マイスター養成講座の修了式

本学の社会人防災マイスター養成講座の修了式が七月二十九日、本山キャンパス（名古屋市中種区）で行われ、第六回にあたる本年は企業や自治体から参加した九人が修了しました。養成講座は職場や地域における災害対策、被災者支援のリーダーとなる専門家の養成を目的に、社会人教育プログラムとして本学地域防災研究センターが毎年開講、これまでに六十人近い社会人を受け入れてきました。

受講生は昨年十月から十か月間にわたり、自由ヶ丘、本山両キャンパスで本学の教員が講師となつて、「企業防災論」「防災学概論」などの講義を受けたほかeラーニングやフィールドワークに取り組みました。

修了式では正木和明センター長が「現場に帰ってリーダーとしての役割を果たしてください。今後も講座を継続するので卒業生のネットワークを作りたい」と挨拶し、最優秀賞を大西喜隆さん、優秀賞を足立育雄さん、市川隆司さん、奨励賞をそのほかの六人に、「A-I-T（愛知工業大学）」名入りの帽子を添えて贈りました。最後に恒例行事として、全員で帽子を投げ上げ、修了を祝いました。式に先立って、研究発表会があり、一人ひとりが企業や社会福祉施設のBCP（事業継続計画）など研究成果を発表しました。受講生には全科目に合格すれば、学校教育法に基づき後藤泰之学長から「履修証明書」が交付されます。



「A-I-T」名入りの帽子を投げ上げ、修了を祝う受講生たち
■本山キャンパスで



設立20周年の懇親会で記念写真に収まる卒業生や教員ら

年を振り返ると同時に今後の発展を誓いました。

学園歌を斉唱した後、市川佳希会長（CAD・CAM学科卒業）が「恩師、仲間、先輩後輩、今日はみんなで楽しんでやりましょう」と挨拶、続いて来賓の後藤淳学園理事長が「専門学校も成年期を迎えました。学校に勢いが出るか出ないかは第一回卒業生にかかっていると当時申し上げましたが、豊田地区に多くの卒業生が進出し、頑張っています。豊田にACEありと言われるように今後も諸君の活躍に期待します」と述べ、稲垣慎二校長も「前から希望していた単位制導入にも目途がつかしました。大学や高专との互換に期待がかかります。新しい試みを取り入れつつ一歩一歩前へ進もうと考えています。今後ともご支援を」と挨拶しました。

で乾杯、懇親に移りました。愛工大名電高校吹奏楽部がお祝いに駆けつけ「七十年代ヒットソングメドレー」を披露したのをはじめ、記念写真撮影、お楽しみイベントなどがあり盛り上がりしました。会場では久しぶりに顔を合わせる同級生や恩師らの輪ができて思い出話が弾んでいました。二十年の歴史を振り返るムービーも上映されました。

同窓会は専門学校開学の二年後、一九九四年に会員百二人で発足、現在の会員数は千四百四十二人に達しています。

懇親会に先立って、母校見学会も開かれ、最新の実習施設見学や同窓会の寄贈品（業務用電子レンジ、大型空気清浄器）の披露、校内スタンプラリーがありました。

専門学校同窓会20周年の懇親会

愛知工業大学情報電子専門学校同窓会が設立二十周年を迎え、八月九日、豊田市の名鉄トヨタホテルで記念懇親会が盛大に開かれました。卒業生や来賓ら百二十人余りが出席、二十

この後、井研治前校長（愛知工業大学副学長）の音頭



同窓会から専門学校へ贈られた電子レンジや空気清浄器

ピンポン外交の記念碑設置へ

戦後の冷戦時代に米中の関係改善、日中の国交正常化のきっかけとなったピンポン外交の記念碑がゆかりの地・愛知県体育館に設置されることになりました。その背景には大学の後藤鉦二初代学長の並々ならぬ尽力があり、記念碑は本学にとつても意義深いものと言えます。具体案をまとめる有識者検討会の初会合が六月十六日愛知県庁で開かれ、後藤淳理事長が会長に就任しました。

有識者検討会会長に後藤理事長

ピンポン外交は一九七一年に愛知県体育館で開かれた第三十一回世界卓球選手権で、中国と米国の選手同士が交流を深めて両国に友好ムードが生まれ、その後米中関係改善、日中国交正常化につながるスポーツ外交の典型として知られます。



挨拶する会長の後藤淳理事長。右が竹内敏子副会長。手前が大村知事



ピンポン外交の舞台となった愛知県体育館。記念碑の検討が始まりました

当時、日本卓球協会会長を務めていた後藤初代学長は「世界最強のチームが加しない大会は意味がない」と、開催国の責任として国際的に孤立していた中国の世界選手権参加を当時の周恩来首相とも会見するなど奔走し、実現させました。大会では中国の荘

愛知県体育館

則棟選手と米国のグレン・コーワン選手が握手する写真も報道され、卓球を通じて友好の高まりを演出したピンポン外交は今日まで高く称賛されています。しかしその功績を伝えるものが何もなく、記念碑設置を求める声も出ていま

「分かりやすいデザインを」

た。愛知県では体育館が今年開館五十周年を迎えるのを機に、その歴史的意義を将来に伝えるため設置を決めました。初会合で大村秀彰愛知県知事と後藤理事長が挨拶。後藤理事長は「お隣の国同士が友好を深め仲良くしていこうという気持ちを出すよう、いつまでも残る記念碑にしたい」と述べました。



意見を述べる後藤淳理事長

「小さな白球が大きな地球を動かした」と称賛されるピンポン外交。その舞台に設置される記念碑の具体案を議論する検討会の初会合で、大村知事は「記念碑を設置することで日米中の友好平和のメッセージを名古屋の地から発信していきたい」と意義を述べました。

検討会の委員は後藤会長のほか世界選手権に日本女子チームのエースとして出場、優勝に導いた竹内（旧姓小和田）敏子中京大学名



意義を述べる大村秀章知事

竹内さんは当時の思い出を「中国人選手は毛沢東語録を必ず持ち近寄りかたい感じもあつたが笑いかけてくれたり握手を求められたり明るい表情が印象的でした」と語りました。

記念碑のイメージについては「分かりやすいデザインがいい」という卓球関係者の意見も紹介されていました。

愛工大名電高校野球部が
名門校シリーズに登場



© ベースボール・マガジン社

売」で特集されました。写真。「激戦区・愛知の衝撃」のタイトルで、「私学4強」と言われる愛知県で後発組ながら愛工大名電は今や他を圧倒する勢いがある、という趣旨。

名電が生んだビッグ3の工藤公康、鈴木一朗、山崎武司の各氏をはじめ奥村衛OB会長、中村豪元監督、倉野光生監督、中日の濱田達郎選手、それに久保芳孝校長らが紹介されています。歴史、伝統、指導理念、ユニフォーム、寮生活など名電のすべてが網羅されています。

また保存版データファイルとして甲子園出場全二十試合、公式戦の全結果なども付いています。

名古屋電気学園の平成25年度決算概要

学校法人名古屋電気学園の平成25年度決算は5月29日の理事会と評議員会において決定、承認されました。その概要は、以下の通りです。

▼「資金収支計算書（会計年度に行った諸活動に対応する全ての収入と支出の内容と当該年度に係る支払資金の収入と支出のてん未を明らかにしたもの）」の決算総額は、280億3千万円となりました。「施設関係支出」には、平成26年度完成予定の大学校舎（仮称：新2号館）建替えに係る建設仮勘定が含まれています。

▼「消費収支計算書（会計年度の消費収入と消費支出の内容と両者の均衡状態を明らかにし、経営状況を表すもの）」における、「帰属収入合計（授業料、入学検定料、補助金など法人の負債とならない収入）」は、115億7千万円、「基本金組入額合計（教

育研究の充実のために取得した固定資産の価格や将来の施設取得のための計画的な積立金など）」を「帰属収入合計」から差し引いた「消費収入の部合計」は、106億4千万円となりました。「消費支出の部」は、116億3千万円であり、「当年度消費支出超過額（「消費収入の部合計」から「消費支出の部合計」を減算した結果）」は9億8千万円、「前年度繰越消費支出超過額」32億6千万円と合算した「翌年度繰越消費支出超過額」は、42億4千万円となりました。

▼「貸借対照表（年度末における資産、負債、基本金及び消費収支差額を把握し、財政状態を表すもの）」の「資産の部合計」は643億円、「負債の部合計」は、64億4千万円となりました。

詳しくは、名古屋電気学園ホームページの「事業報告・財務状況【名古屋電気学園 - 学園の構成 - 法人情報】」をご覧ください。

資金収支計算書（平成25年4月1日から平成26年3月31日まで）

（単位 千円）

収入の部		支出の部	
科 目	決 算	科 目	決 算
学生生徒等納付金収入	9,025,168	人件費支出	6,389,035
手数料収入	371,005	教育研究経費支出	2,506,899
寄付金収入	87,269	管理経費支出	740,528
補助金収入	1,377,949	借入金等利息支出	15,531
資産運用収入	91,346	借入金等返済支出	308,782
資産売却収入	300,340	施設関係支出	1,775,055
事業収入	113,546	設備関係支出	631,730
雑収入	459,070	資産運用支出	830,000
前受金収入	1,698,304	その他の支出	758,856
その他の収入	2,129,012	資金支出調整勘定	△ 658,353
資金収入調整勘定	△ 2,279,023	次年度繰越支払資金	14,732,988
前年度繰越支払資金	14,657,065	支出の部合計	28,031,051
収入の部合計	28,031,051		

消費収支計算書（平成25年4月1日から平成26年3月31日まで）

（単位 千円）

消費収入の部		消費支出の部	
科 目	決 算	科 目	決 算
学生生徒等納付金	9,025,168	人件費	6,356,165
手数料	371,005	教育研究経費	4,198,434
寄付金	132,373	管理経費	912,429
補助金	1,377,949	借入金等利息	15,531
資産運用収入	91,346	資産処分差額	146,002
資産売却差額	340		
事業収入	113,546	消費支出の部合計	11,628,561
雑収入	459,070	当年度消費支出超過額	983,780
帰属収入合計	11,570,797	前年度繰越消費支出超過額	3,259,848
基本金組入額合計	△ 926,016	基本金取崩額	0
消費収入の部合計	10,644,781	翌年度繰越消費支出超過額	4,243,628

貸借対照表（平成26年3月31日）

（単位 千円）

資産の部		負債、基本金、消費収支差額の部	
科 目	決 算	科 目	決 算
固定資産	48,862,662	固定負債	3,613,071
流動資産	15,452,140	流動負債	2,825,276
		負債の部合計	6,438,347
		基本金の部合計	62,120,083
		消費収支差額の部合計	△ 4,243,628
資産の部合計	64,314,802	負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	64,314,802